

次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業 研究開発課題  
事後評価報告書

研究開発課題名	国際基準に適合した次世代抗体医薬等の製造技術のうち 高生産宿主構築の効率化基盤技術の開発に係るもの
代表機関名	高機能遺伝子デザイン技術研究組合
研究開発代表者名	近藤 昭彦
全研究開発期間	平成26年度～平成29年度

【評価結果】

優れている

【評価コメント】

独自技術である OGAB 法による長鎖 DNA 自動合成のトータルシステムの主要部分をほぼ完成したこと、ならびに2種類の DNA 導入システムを開発し微生物発現系を利用した抗体分子の効率的な生産システムの構築し、本研究の目的をほぼ達成したことは評価できる。その優位性を生かして、長鎖クラスター遺伝子領域の強制発現による抗体高生産株構築など、ピキア酵母を使った新展開を期待したい。そのためには、生産された抗体分子の抗原認識能や類似抗原との交差性、糖鎖付加などの特性評価を行い、抗体医薬品の生産系としての可能性を品質、収率、収量の観点で定量的に示し、その優位性をアピールしていく必要がある。

以上